

# 市長メッセージ

珠海市訪問

35



熱海市長 齊藤 栄

先月、中国・広東省にある珠海（じゅかい）市を訪れました。珠海市の人口は約180万人、沖縄よりはるか南に位置し、香港やマカオに隣接した大都市です。熱海市は平成16年に友好都市提携を結び、一昨年は約3ヶ月間、珠海市職員を研修生として受け入れました。

今回の訪問の目的の一つに熱海市の観光PR（宣伝）があります。珠海市内の旅行社を8社、20名集め、中国語で作った熱海のPRビデオを流した後、私がスライドを使って30分間、熱海の魅力をお話しました。この説明会では、「熱海の一番良い観光シーズンはいつですか」「会議や展示会を行える施設はありますか」など多くの質問が出されました。

これまで珠海市とは、どちらかと言えばホームステイやスポーツ交流などが中心でしたが、これからは熱海にお客様を呼ぶための観光交流に、徐々に力を入れていきたいと考えています。

「熱海市」と「珠海市」には多くの共通点があります。どちらの市もその名前に「海」が付き、海に面した美しい町です。珠海市の人たちは気候のせいかな穏やかな方が多く、滞在中私はなぜか珠海市に懐かしい気持ちを持ちました。そして何と言っても食事が美味しい！まさに「食は広東にあり」です。魚介類の豊富な珠海の食事に日本人はきつと満足するでしょう。熱海市民の皆様にはぜひ機会を作って、珠海市を訪れてほしいと思います。



熱海市長 齊藤 栄

先日、「湯楽YOU楽体操」のお披露目会がありました。私も事前にしつかりと練習をし、一緒に体を動かしました。この体操は介護予防事業のひとつの取り組みとして、熱海市が東海大学と共同で開発したものです。熱海の急な坂道を歩く筋力をつけること・維持することを目的に作られており、お風呂の中でも気軽にできるように工夫されています。体操の動きは大変ゆっくりですが、体の芯から温まり、じわりと汗が出てきます。筋力は年齢と共に自然に衰えていきますが、足腰の衰えは要介護状態を引き起こす遠因とも言われ、これを防ぐ運動を日々行うことは、介護予防の第一歩と言えます。

定期的な運動は体だけではなく、心にもよい影響があると思います。私は健康維持のため、週に一回一時間ほどマリンスパで運動をしています。たった1時間でも全身汗びつしより。同じコースを取っている方達と会話をしたりして、たとえ体が疲れていても、心身ともにリフレッシュされます。定期的に運動することの大切さを痛感しました。

「ゆらゆら体操」の普及を目的に、50名を越すボランティアで結成された「げんきひろめ隊」がこのお披露目会でデビューしました。地域の集会などで大いに活躍いただくことを期待しています。老若男女を問わず、いつまでも元気に健やかに日々を過ごしていきたいものです。

# 市長メッセージ

「夢の扉」



熱海市長 齊藤 栄

先日、ある民放のテレビ番組で熱海が取り上げられました。テーマは「温度差発電」。熱海に有り余る温泉熱を活用して電気をつくるというものです。実験は大成功！温泉と水道水との温度差によって生み出された電流で、大湯間欠泉付近にある温泉の湯殿の照明が見事に灯りました。この実験を行った大学の先生は、「次は、家一軒分の電力をまかなえるものを！」と意欲を燃やしています。

これは小さな実験の成功かもしれませんが。しかし私は今後の可能性に大きく期待しています。温度差による発電は環境に負荷をかけることが無く「究極のクリーンエネルギー」とも言えます。私はこの番組の中で「熱海は環境にやさしい温泉保養地を目指したい」と発言しました。また、温度差発電装置を街中に普及できれば、発電された電気を地域や家庭に還元することができるとも思われます。克服すべき課題はたくさんあることですが、夢は大きくふくらみます。

今回、温度差発電の実験場に熱海温泉が選ばれたのは、職員の熱意によるものです。この4月に新設した「総合政策推進室」のテーマのひとつである「新たな財源の確保」の検討の中で、この実験を行った大学の研究室へ相談に行ったことがきっかけです。チャンスはどこに転がっているか分かりません。これからも、熱海の新しいテーマに対して積極的に取り組んでいきます。

# 市長メッセージ

盛況！日曜朝市



熱海市長 齊藤 栄

リニューアルされた渚小公園で日曜朝市が開かれているのをご存じですか？この日曜朝市はお隣の函南町と共同で開催され、従来は二百人程度の来場者数でしたが、この7月から千人の大台に急増。観光客が朝食をとる前の散歩時間に合わせて、開始時間を8時半から7時に早めたことが功を奏したと思われるですが、渚小公園のリニューアル、出店数の増加、カブト虫のプレゼントなど子供たち向けのイベントなども追い風になったと思います。

実は、朝市の活性化のヒントを求めて、6月初めに近隣3箇所の朝市見学に行きました。私も含め、朝市関係者総勢25人のバスツアーです。この見学ツアーでの発見は大きく2つ。ひとつは朝市と言っても生鮮食品とは限らないということ。ある朝市の一押しは鮮魚でも、朝採り野菜でもなく、地元のお店が焼いたケーキだったのです。ふたつ目は、生鮮食品の鮮度では、我々の商品も全く引けをとらないことが分かったことです。この見学ツアーで、朝市関係者は新たな自信とやる気を持ったに違いありません。

この見学ツアーからたった一カ月で大きな成果が出たことに正直驚いています。実際に渚小公園の朝市に出かけてみると、お店の方との会話や、朝市ならではのワクワクした楽しさと共に、もっと朝市を盛り上げたいという関係者の熱意が伝わってきます。朝市の今後が楽しみです。

# 市長メッセージ

二十歳の熱い夏

31



熱海市長 齊藤 栄

自分の人生で最も強烈な夏の思い出。それは26年前（当時二十歳）のチェコスロバキアでの体験だ。大学で土木工学を学んでいた私は、夏休みを利用して海外企業研修に参加していた。当時チェコスロバキアは社会主義国、そして約40人のヨーロッパの学生たちとの寮生活は、私にとって人生最大のカルチャーショックだった。

社会主義体制の慢性的な品不足から、人々は町中で買い物に列をなしていた。店員は誰もニコリともしない。でも、ソーセージとピールの美味しさは今でも忘れられない。一方、ヨーロッパ人の個人主義（要するにわがまま）の強さといったら！コーヒーを頼んで紅茶が出てきても頑として譲らない。しかしバスで老人に必ず席を譲るなど、公の場でのマナーやルールを守る点は日本人より数段上だ。

この時の経験は、その後の自分の人生に大きな影響を及ぼした。海外での物の考え方や社会制度に対する興味は、後のアメリカやデンマークでの留学につながった。そしていつしか私は、「社会は自分たちの力で変えられる」という確信を持つようになった。

先日市役所に、チェコスロバキアの当時の友人から結婚式の招待状が届いた。私が最もお世話になった友人だ。英字新聞の記事を見て、私が熱海の市長になったことを知っていた。すぐに私は返事を書いた。「結婚おめでとう！新婚旅行は是非、日本の熱海に！」と。



## 「桃っ子学校」

熱海市長 齊藤 栄

さる6月26日の夕方、「桃っ子学校」に参加してきました。「桃っ子学校」は市立桃山小学校の子ども達が、姫の沢自然の家で3泊4日の合宿をしながら、昼は小学校に通う体験学習です。

私の突然の訪問に子ども達は驚いていたようでしたが、一緒にカレーを食べながら、とても大きな声での歓迎の挨拶に私もたくさん元気をもらいました。

夕食の後はレクリエーションの時間。全校生徒約60名が学年混合で4つのグループに分かれ、ゲームやダンスを競いました。驚いたのは子ども達の仲の良さ、まるで全員が兄弟のようでした。また、6年生達のリーダーシップには目をみはるものがありました。司会進行、ルールの説明、下級生全員が楽しめるようにしっかりと面倒をみていました。6年生達の行いは5年生に引き継がれ、これが「桃っ子学校」の伝統となっているようです。

終了は夜8時ごろになりましたが、帰りがけに、一緒に写真を撮りたいと子ども達にお願いされましたが、目上の人に対しての大変丁寧な言葉づかいでした。

熱海市の少子化が言われて久しいですが、桃山小学校のような少人数の学校ならではの良さもあります。このような貴重な機会を25年にもわたり続けてきた保護者の皆さんそして先生方に心から感謝いたします。

桃っ子たち、皆スクスク大きくなあれ！

去る5月中旬の週末、課長クラス以上のすべての管理職約60名を集め、一泊二日で研修を行いました。研修の目的は「思いをひとつに」です。熱海再生に向け、幹部職員が一枚岩になることを目指し、私は合宿形式で行うことにこだわりました。

研修には私も参加しました。外部から講師を招き、「リーダーシップ」「チームワーク」といったことが大きなテーマでしたが、参加者の積極性には目を見張るものがありました。発言を求められ、さつと拳がる多くの手、元気な挨拶、笑顔、そして熱心な議論。その真剣な姿は感動的できえありません。

初めは少し硬さが見られましたが、講師の方から「意思の疎通ができていて、大変いいチームですね」と言われました。

私自身も研修の冒頭一時間を使って、自分の生い立ちや熱海再生にかける思いを話しました。まず自分から本音で職員に語りかけることが必要だと考えたからです。

正直私は、毎日の市役所での仕事を通して、幹部職員的一面しか見ていなかったことを反省しました。それは、管理職は若手が議論した内容を大所高所から判断することだけしていると私が先入観を持っていたからです。

自分はこの頼もしい管理職たちに支えられていることにありがたさを感じるとともに、このチームの思いが一つになれば、熱海は必ず再生できると確信した研修になりました。

## 「職員の窃盗事件について」

熱海市長 齊藤 栄

去る4月25日、熱海市役所の職員が市の管理する文化施設から書類などを盗んだとして警察に逮捕されました。市はこれを受け、同日にこの職員を懲戒免職処分としました。

このような不祥事により、市民そして関係者の皆様の市政に対する信頼を裏切ったことに対して深くお詫び申し上げるとともに、このようなことが二度と起こらないよう、再発防止に全力を上げることをお約束いたします。

まず、市役所すべての部署において、公金の取り扱いについて調査を実施します。公僕として働く市職員にとって、市民の皆様からの信頼が何よりの基本であり、この作業は全職員の総力を挙げて実施してまいります。調査対象は過去5年間（公文書の保存期間）までさかのぼり、調査の実施に当たっては、会計監査などの専門家の指導を頂きながら客観性を保ちます。

以上の調査結果を踏まえ、同時に今回の事件の原因も詳細に検証しながら、同様の事件を未然に防ぐための再発防止策をこの夏ごろまでにとりまとめます。再発防止策の内容は公開し、すべての職員に徹底してまいります。

今回の事件は、市に対する信頼を大きく損ねるものであります。失った信頼を回復することは簡単なことではないと思いますが、これまでの市役所の業務のやり方を見直すとともに、市民との信頼関係を改めて構築するために最大限の努力をまいります。



熱海市長 齊藤 栄

「あれっ？いつもと少し違うな」今月号の広報あたまを手になれ、もしそう思っていただけなら嬉しいです。

熱海市では、インターネットをご覧にならない方も多く、全戸に配布される広報あたまは、市役所から市民の皆様へ直接情報をお届けする大切な広報紙です。ページ数も増やししながら、これから広報あたまにさらに力を入れていきます。

第一に、「見やすい、読みやすい」こと。レイアウトや文字の大きさを工夫し、まず手に取って読んでいただくことが必要です。また、私は担当職員に「取材力」を付けるよう言っています。例えば、熱海で活躍されている様々な方達の所へカメラを担いで足を運び、自分の目で見て、直接「生の声」を聞き原稿を書く。こうした取材を通して、コミュニケーションが生まれ、原稿に気持ちもこもり、読者にとって読む価値が生まれます。

最も大切なことは市役所のメッセージを伝えることです。私を始め、市が今何をしようとしているのかについて、毎月特集記事を設けるなどして、具体的に分かりやすく市民の皆様にお伝えしていきます。

大都市のように全ページカラー刷りといったことはできませんが、手作りでも内容のある、毎月届くのが楽しみといわれるように知恵をしぼってまいります。これから広報あたまがどう変わっていくか、乞うご期待！



熱海市長 齊藤 栄

## 新年度に向けて

市長就任以来、新年度の予算編成作業はこれで三度目となります。市民の皆様から納めていただいた税金を含め、総額で約169億円（一般会計）のお金の使い道を決定する大変重要な作業です。

平成二十一年度の予算案のポイントは三つあります。一つ目は、百年に一度といわれる「経済危機への対応」です。中小企業がお金を借りやすくし、景気を刺激するための事業を行います。二つ目は「行財政改革」です。市役所の人件費などの縮減を図りながら、公共料金の負担増を市民の皆様にお願いしなければなりません。三つ目は「熱海発展のための芽を育てる」です。厳しい財政状況の中でも、熱海駅前広場の整備や熱海中学校の耐震事業などにはしっかりと対応していきます。

新年度の組織改正として「総合政策推進室」を新たに設置します。これは部署を横断する課題や市長の特命事項などについて、政策立案の核となる組織です。まずは「財源確保」をテーマとして、これまでどちらかといえば縮小一辺倒だった市の財政に対して、「稼ぐ市役所」といった新たな視点を探っていきます。この組織では経済人などの知恵を市政に活かす仕組みを取り入れ、市役所のシンクタンクとしての機能をより活性化させていきたいと考えています。

以上の考え方について、議員ならびに市民の皆様にご理解をいただき、市政発展のため努めてまいります。

市長メッセーじ

25



## オバマ大統領誕生

熱海市長 齊藤 栄

1月20日、アメリカ合衆国で新しい大統領が誕生しました。私はその就任演説を生放送で聴き、大変感動しました。それは新大統領がアメリカのおかれた厳しい状況を反映し、「新たな責任の時代に入った」として、国民一人ひとりに進んでその責務を果たすことを求めたからです。権利だけを主張する「お任せ民主主義」はダメ、日本そして熱海も同じ状況にあると思いました。

最近、タクシー運転手の方から「市議会をラジオで聞くようになった。なぜ水道料金を上げなければならぬのかを初めて知った」と聞きました。また、市内の中学生が「広報あたみの市長メッセーじは毎回読んでます」と市政に対する興味を真剣な顔で伝えてくれました。これまで、市政の情報公開や発信については努力をしてきましたが、もし、政治や行政を身近に感じてもらえるようになったら大変嬉しいことです。

1月17日に始まった熱海梅園の「梅まつり」では、市民ガイドによる1時間の園内ツアーが好評です。私自身もこのツアーに参加しました。熱海市ではこの「まち歩きガイド」の誕生など、市民がまちおこしを担う新しい風が少しずつ吹き始めていると思います。一人ひとりの小さな力を同じ方向に結集させた時、その力は2倍、3倍となって熱海を動かします。

梅園のリニューアルで、熱海には多くの可能性や宝があることを痛感しました。市民が動き出せば熱海は劇的に変わることができると思います。